

事例 18

農村アメニティの向上と有機農業の里づくり

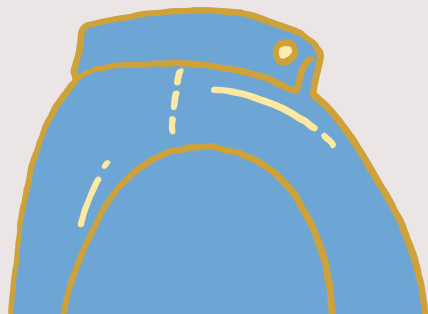
～ 中山間地域総合整備事業「潤いの里湯村地区」～

きすき
[木次町]



【地区の概要】

事業年度	平成8年度～平成12年度
事業費	1,565,300千円
事業内容	農業生産基盤整備
	ほ場 24.9ha (3団地)
	農道 1,894m (2路線)
	農村生活環境基盤整備
	農業集落道 1,020m (1路線)
	農村公園 4,500㎡ (1箇所)
	多目的広場 7,000㎡ (1箇所)



本地区は木次町の南部に位置し、現在、国土交通省による斐伊川治水事業の尾原ダム建設が進められており、このダム周辺整備と平行して中山間地域総合整備事業・農業集落排水事業などを実施し、農業の推進及び近代化と、地域住民の定住を目的に整備が進められています。

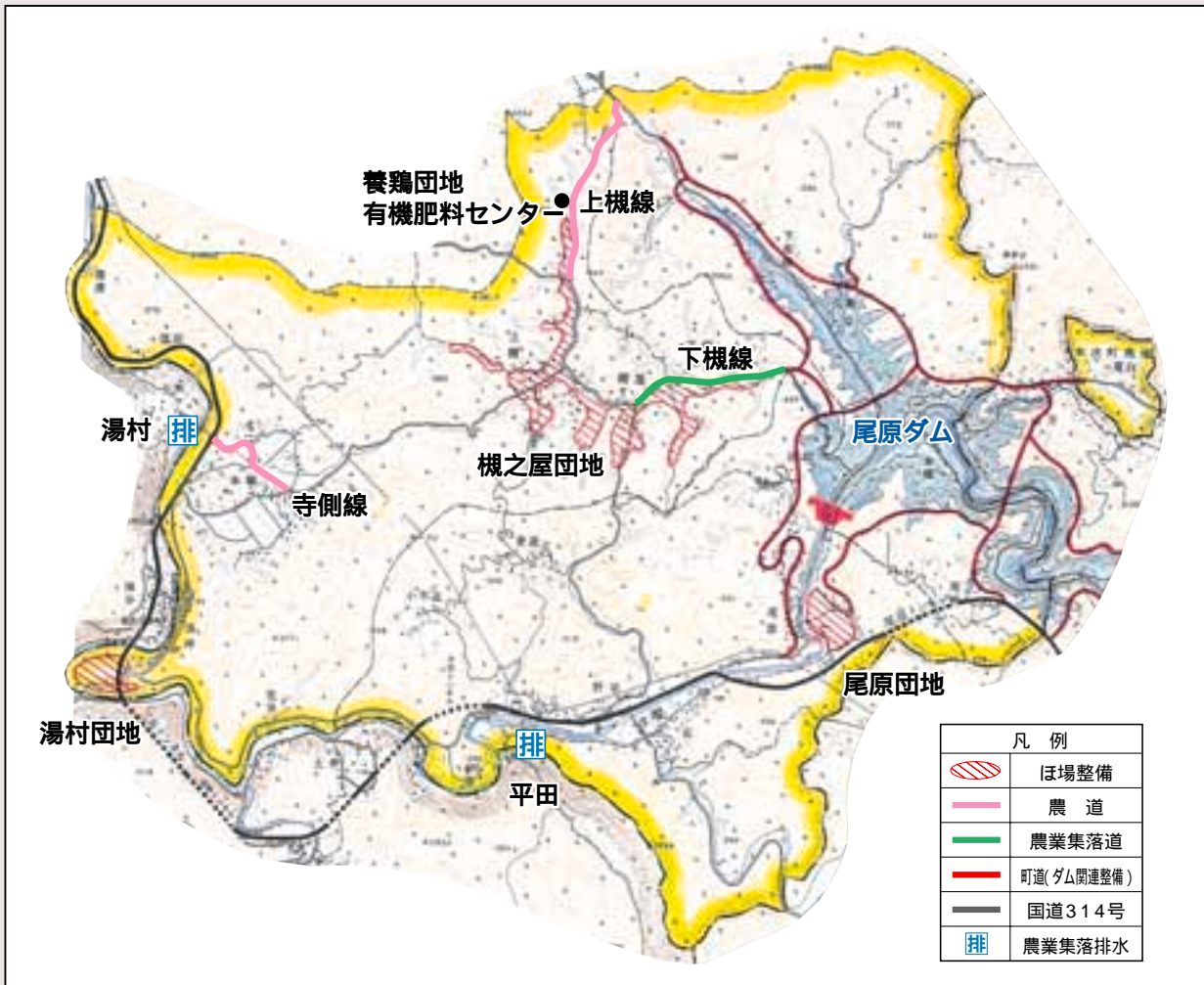
湯村及び平田の両地区では、地区内人口の約8割を対象に農業集落排水事業を中山間地域総合整備事業と一体的に実施しました。



農道を利用した「湯村ジョギング駅伝」には遠くは出雲市や松江市から約250名の参加があります。



[農道上棚線沿いの養鶏団地・有機肥料センター]
有機肥料センターの肥料生産量は800t/年で、約400haの農地が賄え、県東部一円にJAを通じて出荷しています。



農地の集積：整備後は機械化が可能となり、生産法人（槻之屋ヒーリング）へ農地の集積が進みました。

団地名	法人経営面積
槻之屋団地	13.6 (ha)
湯村団地	2.4 (ha)
計	16.0 (ha)



尾原団地

農道下槻線はダム関連整備路線に接続し、生活道路として、また、営農に活用されています。



ダム事業の残土を、ほ場や多目的広場の盛土に活用し、工事費を節減しました。

団地名	節 減 額
湯村団地	1,400万円
尾原団地	7,000万円